

啟

市水塔下  
懸如

何馬古  
今回

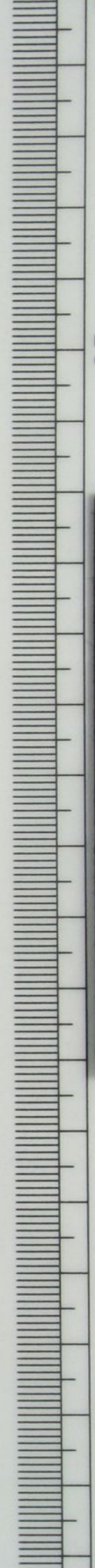
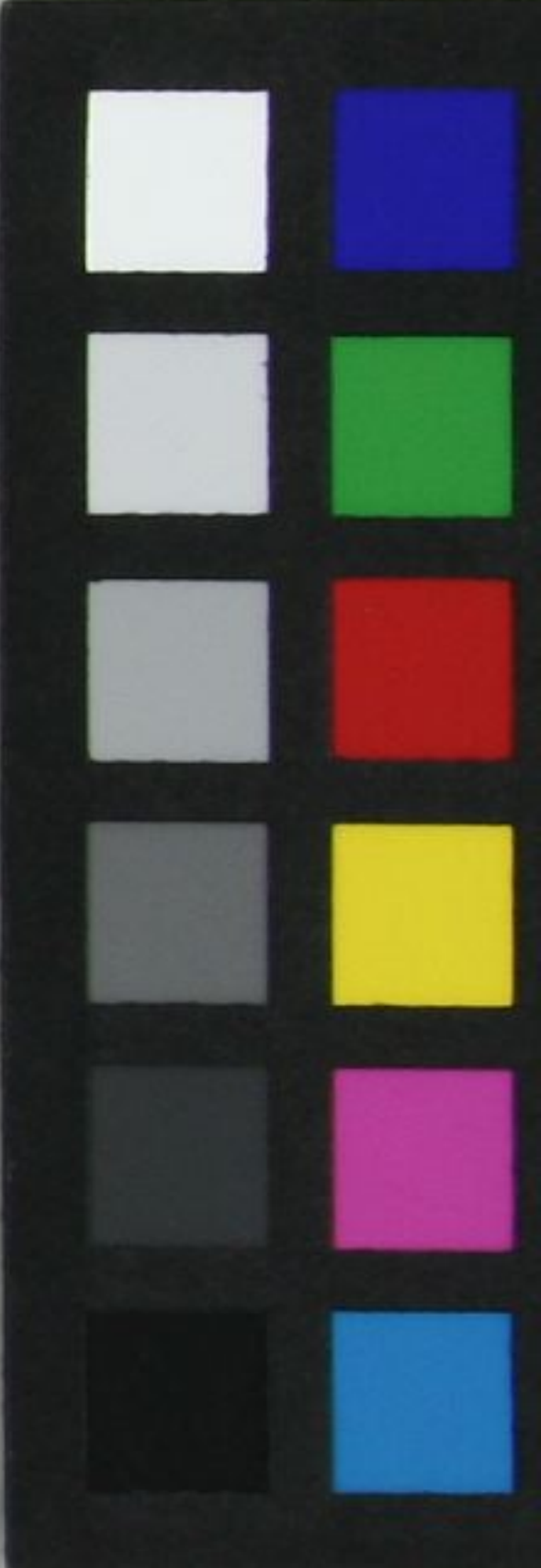
是尤内成  
有

らん  
有

自  
分の  
急  
く  
澤

九  
年  
か  
ぬ  
ら  
ん  
丸

何  
と  
か  
所  
分  
別  
着



何とか場所分別着

々進行あらんとして

毛行りけ首石の

如く求む婚言題を

ふ熱心なる人を少

なくは縁由  
ヤ上

心ゆく結む  
~~世に~~ を 辭 は り の り

うふは免さ角結

婚せんと決定せる以

上は必ず熱心をもて

婚せんと決定せるは

上は必ず熱心〇〇〇〇を以て

其事には必ず

可化道理の存する

ものとなりし方例也

後功消免るべく

どかしくはわりの小言

や上り

さて又過るしやと

登一時的采らめんと

決心する一と心何

決心する一と心何

分、あきらめあきらめ

取返る覚悟と決心改

加、執て、編く

五、<sup>〇</sup>例、<sup>〇</sup>分、<sup>〇</sup>二十

五、<sup>〇</sup>例、<sup>〇</sup>分、<sup>〇</sup>二十

一、<sup>〇</sup>例、<sup>〇</sup>分、<sup>〇</sup>二十

五、<sup>〇</sup>例、<sup>〇</sup>分、<sup>〇</sup>二十

一、<sup>〇</sup>例、<sup>〇</sup>分、<sup>〇</sup>二十

一、<sup>〇</sup>例、<sup>〇</sup>分、<sup>〇</sup>二十

一 なるなる 龍土

カエより 実さほ申

得くはる 岡尾一

一 書。流つかは 龍土

不宣

カハニ平吉

左生

節 下

◎ 岡尾の道号を賣りに任ぬか生が谷と云ふ  
ためとは中々さぬありぬか

下 総 結 城 郡 岡 田 村

長 孫 節 好



七郎平吉

在生

節 下

◎ 田尻、道尾を賣り、佐藤、生が、谷と、買入  
ためとは、や、さ、ぬ、あ、れ、な、り

下 結 城 郡 岡 田 村

長 孫 節 下



七郎平吉

東京府月島橋町

三十七

伊藤半次郎

伊藤九子夫年東長坂筋



特別

文庫14

C43

35

30

25

20

15

10